

# みんなで食品ロスを減らそう！ みらいにつなぐもったいない

世界中のおいしい料理を楽しむことができる私たち。でも、そのありがたさを忘れ、また食べられる食べ物を捨ててしまう「食品ロス」が問題になっています。  
10月は「食品ロス削減月間」。コープデリグループでは「みらいにつなぐもったいない」を合言葉に、「食品ロス」を減らす取り組みを進めています。

## 毎日お茶わん約1杯分の食べ物が捨てられています

野菜、肉、魚、米……。食卓に欠かせない食品が、食べられることなく捨てられてしまうことがあります。これを「食品ロス」といい、日本では年間612万トン、1人当たり毎日お茶わん約1杯分、132グラムの食べ物が捨てられています。これは、世界中で飢饉に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量（年間約390万トン・2018年）の1.6倍。こんなにくさんの食べ物が捨てられているなんて、もったいない。と思いませんか？

食品ロスは、生産・加工・流通・外食、家庭などさまざまな場所が発生します。612万トンの内訳は、生産・加工・流通・外食で328万トン、家庭は284万トン。食に関わる人、つまり全員で考え、取り組むことが、食品ロスの削減につながります。

## 食品ロスは年間612万トン！



## コープは食品ロス削減の取り組みを進めています

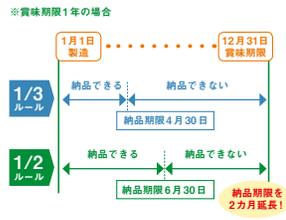
### 規格外農産物を取り扱っています

ちよっとした傷やサイズ違い、天候被害を受けた野菜や果物は、販売されることがなく廃棄されることがあります。コープでは、見た目は劣るけれど味の問題は無い農産物を「不揃い」「天候被害果」としてちよっとお得な値段で販売しています。

### 宅配商品案内「ハビ・デリ!」掲載例



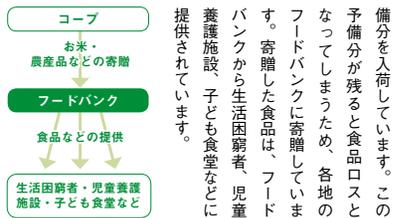
### 商品の納品期限の延長にに取り組んでいます



日本では、お店への納品期限を賞味期限の3分の1までとする商習慣があります。その期限を過ぎた商品は受け入れられておらず、多くは廃棄処分になってしまいます。この3分の1ルールは見直されつつあり、コープでも賞味期限180日以上の商品の納品期限を2分の1に延長し、食品ロスの削減につなげています。

### フードバンクに寄贈しています

野菜や果物の不良品や、流通の途中でお米の袋が破れてしまった場合に備えて、コープでは予



備分を入荷しています。この予備分が残ると食品ロスとなってしまうため、各地のフードバンクに寄贈しています。寄贈した食品は、フードバンクから生活困窮者、児童養護施設、子ども食堂などに提供されています。

## 家庭での工夫も大切です

### 「そのまま捨てる」を減らす

食べきれずに腐らせてしまったり、消費期限・賞味期限が過ぎてしまったりして、食品を食べずにそのまま捨てていませんか？ 家にある食材をチェックしてから買い物をしたり、日にちや曜日を決めて食品の消費期限・賞味期限をチェックしたりしましょう。

### 期限表示を正しく知りましょう

<b>消費期限</b>	食べても安全な期限 傷みややすい食品に表示されます。期限を過ぎたら食べない方が安全です。	<b>賞味期限</b>	おいしく食べられる期限 日持ちしやすい食品に表示されます。期限を過ぎても食べられるようになるわけではありません。
-------------	---	-------------	---

※消費期限・賞味期限は開封していない状態で、表示されている方法で保存した場合の期限です。いずれも開封後は早めに食べましょう。

### 「食べられる部分も捨てる」を減らす

野菜や果物の皮を厚くむくなど、食べられる部分まで除去して捨ててしまうことも食品ロスにつながります。捨てる部分をなるべく少なくし、例えば大根の皮はきんぴらにすると、なるべく食べる工夫をしましょう。



### 「食べ残し」を減らす

料理を作りすぎてしまった、外食時に量が多かった、嫌いな食べ物が含まれていた、と食べ残しをしていませんか？ 残ってしまった料理は適切に保存する、別の料理にリメイクする、外食時には量や食べられない食材がないか確認しましょう。



## 「食品産業もったいない大賞」 農林水産省食料産業局長賞を受賞しました

コープデリグループは、食品ロスを削減する「みらいにつなぐもったいない」の取り組みを、組合員や生産者などとともに進めています。この取り組みが評価され、「第7回食品産業もったいない大賞」（主催：公益財団法人 食品等流通合理化促進機構）にて「農林水産省食料産業局長賞」を受賞しました。



塩川白良 農林水産省食料産業局長(右)より永井伸二郎 コープデリ連合会副理事長(左)に表彰状が授与されました

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標12:

つくる責任、つかう責任

につながっています。

12 つくる責任  
つかう責任

